

「知の系譜」文庫について

広島経済大学図書館の「知の系譜」文庫は、1987年にアダム・スミスの『国富論』初版を購入されたことから始まりました。以降、歴史的な資料を保存する大学図書館の役割と、長期的な視点に立った資料の収集を使命として、名著と呼ばれる書物を初版にこだわって収集されています。具体的な収書方針としては以下の3点を挙げられました。現在、自然科学書102点、人文科学書106点、経済学書140点、その他、ケルムスコット・プレス全刊本など計408点を所蔵されています。

<収書方針>

- (1) 15世紀以降に印刷された稀覯書を収集。写本は原則として収集しない
- (2) 印刷によって人類の進歩に寄与した著作を収集
- (3) 原則として初版本を収集

書庫内は完全冷暖房で管理されており、温度は摂氏13～18℃、湿度は50～65%の間で設定。イナージェンガスの消火設備を整えておられます。

今後の課題として、特殊資料を扱う図書館員の養成を挙げられました。

書誌学研究会では多くの大学図書館の貴重書庫を拝見してまいりましたが、今回の「知の系譜」文庫については、そのすべての資料の美しさに参加者全員が感嘆の声をあげました。大学の方針として収集され、かつ積極的に図録を刊行されている姿勢に、多くのことを学ばせていただいた研修となりました。